



## ●エール大学ニューヨーク・コンサート

エール大学音楽学部の作曲家が作曲したギターソロ、ギターアンサンブル、室内楽作品を特集した現代ギター音楽のタペが、ニューヨークのカーネギー・ワイル・ホールで開かれた。このコンサートは同校の芸術監督であるデイヴィッド・シフリンがギター科主任教授ベンジャミン・ヴァードリーに依頼して、エール大学の作曲家が書いた作品を、同校の大学院生に演奏させるというプログラム。おそらく二度と繰り返されることがないイベントという意味で、特別なコンサートだった。ヴァードリーがエール大学の作曲家のギター作品を集めた理由は、彼が過去4年間、エール大学のギター科を受験する学生のための課題曲を作曲の教授陣に依頼してきたからだ。課題曲にはテンポの指定はあるが、強弱も、フレーズングの指示も、アーティキュレーションの表示もない。ヴァードリーの狙いは、受験生の音楽的な独創性を判断することにある。

コンサートのオープニングは、キャサリン・アレキサンダーが作曲したギターカルテットのためのユーモラスな作品〈Fan Far - Esque〉で、ギターの和音による語り合いがあり、ついでパーカッション、ハーモニックス、気ままな発声、と続き、中には鳥の声のような不思議な音も入っていた。1人が中東のメロディーを弾いている間に、もう1人のギタリストがネックをタッピングして伴奏をした。曲の終わりには、4人全員がユニゾンで床を踏み鳴らした。アレキサ

ンダーは、エール大学で作曲とミュージック・テクノロジー（コンピューターやデジタル楽器を使う音楽）を教えている。

エズラ・ラダーマン作曲の独奏曲〈On Vineyard Sound〉を、ヴァードリーがクラシックギターで演奏した。この曲は活発なベースと軽快なリズムで始まった。〈アンダンティーノ〉の楽章では、フレット上を長いグリッサンドで移動する、リズムカルでアクセントの効いたベースラインが特徴的だった。後半の2つの楽章は、オーケストラ曲のような厚みをもたせた構成になっていた。作曲者のラダーマンは、1989年から1995年の間、エール大学の音楽学部長を務めている。彼は、ヴァードリーに依頼されて課題曲を書いたが、それが成功だったので、全体で4楽章からなる作品を書くことにした。

「4人の作曲家が試験用に書いた、すべて新しいギター音楽でコンサートを開くというのは、自然でありエキサイティングな企画だと思ったのです。同時に、最近エール大学音楽学部を卒業したばかりのサムエル・アダムスにも作曲させたかった。デイヴィッド・ラングとアロン・ジェイ・カーニスは、すでにギター曲を書いていたので、これを取り上げるのは簡単でした」とヴァードリーは語った。

25歳の作曲家サムエル・アダムス作曲の〈Tension Study No.1〉は、パーカッション、チャイム、キックドラムを使ってエレキギターをフィーチャーした作品。アロン・ジェイ・カーニス作曲の〈偉大なるダンス・ヒット100曲〉は、ミュージック（環境音楽）からファンク、ロックンロール、ソウル、ディスコまでポピュラーなダンス音楽のリズムをテーマにした作品。ヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロの弦楽四重奏の伴奏により、クラシックギターで演奏された。ピュリッツァー賞を獲得しているカーニスは、2003年以来エール大学音楽学部作曲科で教えている。

ヴァードリーの委嘱により作曲されたギター独奏曲〈夢見るホアキン(Joaquin Soñando)〉は、マーティン・ブレスニックが2007年に生まれた孫の誕

生を祝って作曲した作品。修士課程の学生であるイアン・オサリバンが、豊かな甘い音色で全3楽章からなる曲を演奏したが、最近作曲されたクラシックギター独奏曲としては珠玉の1つと言えよう。この楽譜はカール・フィシャー社から出版されている。ブレスニックはエール大学音楽学部作曲科の教授であり、コーディネーターである。

イングラム・マーシャルが作曲したギターとフルートのための〈愛について語る〉は、ギターのリズムとフルートのメロディーが対話しているような、のどかな作品。マーシャルは、全美芸術基金とアメリカ美術&文学アカデミーから表彰されている。彼は恩師であるインドネシアの作曲家パク・ジョクロ(Pak Tjokro)が作曲したジャワのガムランのメロディーを使ってこの曲を書いた。デイヴィッド・ラング作曲の〈暖かさ warmth〉はエレキギターのための二重奏曲。この曲名は音質を意味しており、その度合いは、アンプの配置を含めて、個々のギタリストの判断に委ねられている。

エール大学ミュージック・テクノロジー研究センター長のジャック・ヴィーが、エレクトリック・ギターとテープのために書いた〈ナショナル・アンセム〉という曲を、ヴァードリーが演奏した。ザ・ナショナルというアメリカのロックグループのアルバム〈ハイ・バイオレット〉のトラックから録音した音源をバックに演奏した。

ヴァードリー作曲のギター8本のための〈Give〉は、彼自身の指揮で演奏された。明るく快活なマーチで、爪弾かれるバス・ラインがチョーキングによるメロディーで強調されて感じを変えていた。

「この〈Give〉という曲は、ドイツのロストック・ギターアンサンブルのリーダーであるトーマス・オッファーマンから委嘱されて書いた作品です。かつてジョン・ウィリムスとジョン・エスリッジのために書いた〈平和、愛、そしてギター〉という作品をベースにしたものです。第3楽章はそれとは違うメロディーになっています」とヴァードリーは解説した。

## ■アサド兄弟のニューヨークコンサート

ギターデュオのためにヴァードリーが書いた新曲〈彼が言ったこと〉を、昨秋、アサド兄弟がニューヨークの92番街Yにあるカウフマン・ホールで世界初演し、ヴァードリーもこれに立ち会った。オーボエ奏者でエール大学の口述文獻プロジェクトの責任者であるリビー・ファン・クレーブは、世界初演を前にして、作曲者であるヴァードリーを舞台に呼び、この作品についてインタビューをした。ギター製作家トーマス・ハンフリーへの敬意と思い出のために作られたこの作品を、ヴァードリーは約1ヵ月で書き上げたという。

1970年代、ヴァードリーはハンフリーと同じアパートの3階上に住んでいた。ハンフリーのアパートは、ニューヨーク在住のギタリストたちの溜まり場になっていた。この場所こそ、ヴァードリーとアサド兄弟が初めて出会ったところなのだ。

「この曲のタイトルは、快活で人を引きつける強い個性を持ったトム（ハンフリー）のことを意味しています。彼は、話上手な語り部で、彼を知るすべての人が懐かしく思い出するような貴重な話を、たびたび聞かせてくれました」とヴァードリーは言った。

アレサ・フランクリンの〈アメイジング・グレイス〉のゴスペル・レコーディングと、キース・ジャレットの初期のゴスペル風インプロヴィゼーションに触発されて、ヴァードリーはこの曲を書い

たという。この作品の2つのモチーフはライル・ラヴェットの歌〈教会〉のピアノ・パートから取ったもので、1本のギターの低音弦は5弦がG、6弦がDに調弦されていた。アサド兄弟が演奏したこの曲は、ハンフリーのユーモラスな性格を、心に響く、流れるような幾多の音で表現されていた。この作品がトーマス・ハンフリーらしさを見事に表現していたので「1音たりとも疎かにできなかった」と演奏後、セルジオ・アサドがコメントした。このコンサートは、アサド兄弟が、デュオとして一緒に演奏してきた45年間の記念碑であると舞台から挨拶した。

コンサートのハイライトは、ピアソラの〈トロイロ組曲〉から〈バンドネオンとギター〉および、ジスモンチの甘くノスタルジックな〈道化師〉だった。〈道化師〉は、ジスモンチが1979年に出した有名なアルバム〈マジコ〉でのサクソフォンのジャン・ガルベルクとベースのチャーリー・ヘイデンとのトリオを思わせるような演奏だった。セルジオ・アサドは、この曲をデュオ・バージョンのほかに、彼の妹バディのためにソロ・バージョンを編曲している。

2人は、1960年に作曲され、イダ・プレスティとアレクサンドル・ラゴヤによって世界初演されたロドリゴの〈トナディーリャ〉を演奏した。続いて典型的なシンコーションのきいた低音に16分音符が重なるエルネスト・ナザレーのアフロ・ブラジリアン〈バトゥー

ケ Batuque〉と、ロマンティックなワルツ〈エポニーナ Eponina〉を演奏した。さらに、セルジオ・アサドが作曲し、弟のオダイルに献呈した作品〈6つのブレヴィダーデ (Seis Brevidades)〉を演奏した。作曲者によると、この曲は旅行中の〈ちょっとした時間〉を意味するラテンアメリカ音楽の6つの小品で、“Brevidade”とは、ポルトガル語で“ひと時”と“ブラジルのカップケーキ”の2つの意味をもつ言葉で、この曲は、さしずめ6個の甘いミニケーキといったところ。

このデュオは、さらにブラジルの民族詩のジャンルに入るジスモンチ作曲の〈弦の物語〉を演奏した。この曲はニューヨーク92番街Yにある芸術家コミッティーの委嘱による作品で、2007年に世界初演された。オスティナートによる音楽的なナレーションが特徴で、初めと終わりの部分は、完全5度の和音が響き、ソフトで、少し暗いものだった。コンサートの最後は、セルジオ・アサドがギターデュオのために書いた〈タヒヤ・リ・オーソリナ Tahhiyya li Ossoulina〉だった。中東モードのメロディーとリズムが特徴的な作品で、2005年に初めて開かれたアラブ・ラテン・サミットの際に世界初演されたもの。曲のタイトルである〈我がルーツへのオマージュ〉は、1880年にオスマン帝国から逃れてレバノンやシリアからブラジルに移住した、彼らの先祖であるキリスト教徒を意味している。



左から、ベンジャミン・ヴァードリー、リビー・ファン・クレーブ

左から、オダイル・アサド、ベンジャミン・ヴァードリー、セルジオ・アサド